

## ～聴覚障害乳幼児指導の勉強会を開催しました～

平成30年5月26日(土)、当センターにて聴覚障害乳幼児指導勉強会を実施しました。

参加したのは、当センターの指導に通う難聴児を育てている保護者(お母さん、お父さん)です。

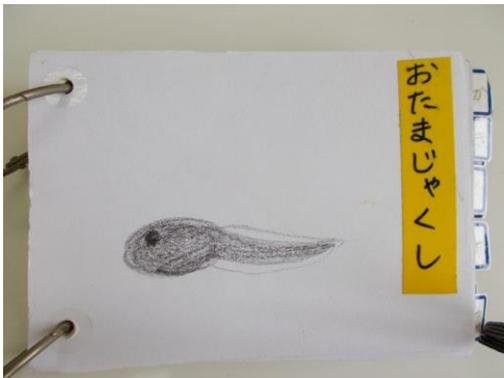
今回の勉強会では、湘南聴覚障害児親の会代表の小島さんを講師として迎えました。小島さんご自身も、ろう学校小学部に通うきこえないお子さんを持つ“お母さん”です。

前半は小島さんから、お子さんが聴覚障害と分かったときのことや、親子のコミュニケーションで悩んだこと等を伺いました。お子さんは現在、補聴器を装用し、手話、口話、書く等、さまざまなコミュニケーション手段を獲得しています。相手に合わせて自然に口話と手話を使い分けている姿をビデオで見せていただきました。



聴覚障害は耳からの情報が入りにくい。だからこそ、言葉を育むための手段として、目で

見てわかるものを使ってきたそうです。「とにかくカードを作らなくては」と手当たり次第に写真を撮ってカードを作る…でもそれでは子どもは見向きもしない。そんな時期を経て、「子どもが興味のあることから言葉を広げていくことが大切」という考え方に変わっていったそうです。わが子がおたまじゃくしに夢中になっていたらそのチャンスを逃さず、絵を描く。それを使って、親子でやり取りをする。そういうことをコツコツ



と積み重ねてきて、言葉を育んできました。

後半は参加したお母さんお父さんたちが、家庭で使っている視覚手段(絵カード、写真カード、絵本、カレンダー等)を実際に見せながら、「親子のやり取りの中でどのように使っていけば良いか」、「作ったもののうまく使えない」、「これから使いたいけれど何をしたら良いか」等の疑問を出し、小島さんに答えていただきました。

小島さんから、「子どもの興味に合わせて、視覚的な手段も使って、言葉を育てていく」ということが一番大切なメッセージとして保護者の皆さんに伝わったように思います。



当センターでは「親子の信頼関係を築き、子どもの興味に合わせて言葉を育む」「聴覚障害を理解する」ということを大切にして、これからも難聴のお子さんたちと保護者の皆さんを支えていきたいと思っています。